

令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 ふるさとを愛し よく考え 心豊かに たくましく生きる 児童の育成

目指す子どもの姿 きらきらかがやく母子つ子 よく考え行動する子 つながる子 心と身体を鍛える子

変容を目指す資質・能力 a知識及び技能 b思考力・判断力・表現力 c学びに向かう力 d情報活用能力 e課題解決能力 f学び続ける姿勢 gコミュニケーション能力

三田市立母子小学校
学校長 阿部 恭大
研究主体【学力向上委員会】

前年度		継続性	4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)					
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
○書く・話す活動の充実 ○言語力の向上 ○読書活動の充実	○めあてやふりかえりはどの時間でも意識して行うことができ、児童が1時間を見通して授業に臨んでいる。 ○ビブリオバトルやブックトークの活動を継続し読書活動や体験活動とつなげながら言葉の力をつけていきたい。 ◆朝の会や授業中に書く場面を意識して取り入れることで、書くことへの抵抗は少なくなってきたが、語彙が少なく表現力に乏しい面がみられる。今後も体験と結び付けて文章に表したり、資料と関連付けてまとめるなど、授業や家庭学習に「書く場面」を意識して取り入れていく。	A	⇒	○言語力の向上 (a,b,c,d,e,f,g)	・書く、話す活動の充実。「根拠となる部分」を明確にして文章に書いたり、話したりすることができる。 ・算数や各教科でも書く力をのばし、ホワイトボードや板書だけでなく、タブレット端末を使っておたずねや説明を行う。大切なことを板書に残し、学びの質を高める。 ・自分の言葉でめあてを立て、授業の構えと工夫したノートづくりを行う。	・国語を中心に、根拠となる部分を見つけて発表する場面を設定する。 ・「めあて」や「ふり返し」を教科や特別活動で行い、全校生の前でも意見や感想を述べる機会を設ける。 ・おたずねの意義を子ども達に伝え、わからないことをわからないと自分から言えるようにする。 ・発表で出た大切なことを板書に残し、自分の学習の足跡を記録していく。	・朝の会や算数の学習、特別活動を通して、自分の意見や感想を述べることができている。しかし、根拠となる部分を見つけて発表することには課題がある。 ・わからないことをわからないと自分から言うことができる児童も増えてきたが、言えずにいる児童もいる。 ・日記を各学年で書いているが、文章量が少なく、出来事の羅列で終わっている。振り返りなどの文章を書く際にも、考えたことや感想などが詳しく書けるような表現力をつけていきたい。 ・発表したことを板書に書き残すなど、自分の学習の足跡を記録に残していくことは、引き続き課題である。 ・読書には取り組んでいるが、絵本や学習漫画などが多い。学年相応の読み物などにも興味を持って読み、言葉の力をつけていきたい。	B
○個別指導の充実 ○漢字・計算等の基礎基本の定着と計算力の向上	○休み時間などを利用して学力補充を行うことにより個別最適化の学びにつながっている。 ◆計算アタックでは自分で伸びを実感し前向きに取り組む児童が増えている一方、課題によっては苦手意識を持ち時間がかかる児童の様子もみられる。	B	⇒	○基礎基本の定着と計算力の向上 (a,b,c,d,e,f,g)	・週2回の計算アタックを行う。6回1セットとして行い、回答時間の短縮を目指す。また正答率80%をめざす。 ・漢字や語句の意味などのテストにおいて80%以上の正答をめざす。	・計算アタックを折れ線グラフによって見える化を行い、グラフの結果から自分の成果を確認できるようにする。 ・同じ問題を計6回行い、正答率の上昇を目指す。 ・毎日の授業や宿題で漢字を書く機会を設け、週1回の漢字アタックで成果を確認し定着を図る。	・年度途中より、6回1セットを前半、後半に分けて計算アタックを実施した。前半と系統が似た問題を後半に設定した。4回目は、若干タイムが遅くなることも多いものの、5回目以降、タイムと正答率がどちらも高くなる児童が多かった。今後も、計算アタックを通して計算力の定着を図っていく。 ・毎週の漢字アタックが、身近な目標として意識しやすく子どもたちは、毎週それに向かって努力している。目に見える目標は、意欲の持続に効果的である。しかし、漢字アタックでは90%の正解率であるものの、学期末のテストでは正答率が70%にとどまっている。今後、さらに漢字の定着を図ってきたい。	A
○家庭における学習及び生活習慣の定着・向上 ○家庭でのコミュニケーションの充実	○朝食はどの児童もしっかりとって登校している。友だち同士の関係も良好である。あいさつやお手伝い、睡眠時間、家庭読書などの面では引き続き家庭と連携して取り組んでいく。 ◆家庭学習の時間が少ない。自分で課題を見つけ取り組むことができる自主性を育てたい。	B	⇒	○家庭における学習及び生活習慣の定着・向上 (c,e,g)	・家庭と連携し、生活リズムを整え計画的な学習習慣を定着させる。 ・自分で課題を見つけ取り組む自主性を育てる。	・あいさつやお手伝い、家庭読書、睡眠時間の大切さについて懇談会や通信等で発信していく。 ・タブレットでとった写真を使っているスピーチや週末の日記等、新しい家庭学習の取組を紹介することで、自主的な課題に取り組めるようにする。	・保護者と連携し、睡眠時間の大切さについて考えることで、子どもたちは、睡眠時間を意識して生活することができた。しかし、十分ではなく、子どもによっては、睡眠が足りていない様子も見られる。今後も、規則正しい生活のリズムが定着するように、懇談会や通信等で発信していく。 ・タブレットで撮った写真を使っているスピーチや週末の日記に取り組んだが、話題が広がらず、自分で課題を見つけるといった自主性を育てるところまでには至らなかった。新聞やニュース等で話題を広げ、社会の情報にも関心をもって新しい課題を見つけ取り組めるようにしたい。 ・家庭における学習時間が少ない。 ・提出物や持ち物の準備等物を管理する力を身につけさせたい。職員の間で共通理解のもと、根気強く指導していく。	B
○情報活用力、プログラミング思考の向上 ○タブレット端末の利用と説明力の向上	○多くの児童がタブレット端末を使い資料作りをしたり、発表や説明をしたりするなど、タブレット端末を利用することが定着してきた。 ○タブレット端末を使用することで、視覚的に情報を受け取ることができるので授業への構えが前向きになった。 ◆今後はタブレット端末を取り入れた授業の工夫・改善についての研修を実施し、さらに広めていきたい。	B	⇒	○タブレット端末を取り入れた授業の工夫・改善 (b,d,e,g)	・タブレットを活用して、調べ学習や、大型テレビへの掲示など、授業の工夫・改善を行う。 ・全国学力学習状況調査における質問調査で「日常的にICT機器を活用できる」と回答する児童が80%以上になるようにする。 ・質問調査で「ICT機器を活用し、自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えることができる」と回答する児童が80%以上になるようにする。	・教師が指定するホームページを児童がQRコードから読み取り、調べ学習を行う。 ・週末にタブレットを持ち帰り、ドリルパークを家庭学習としても行う。 ・タブレットを活用した発表の機会を設け、相手に伝わる発表になるように、意見交流をしながら、目的に応じたアプリやプレゼンテーションソフトを使うことが出来るようにする。	・国語や社会、総合的な学習の時間を中心にタブレットの検索機能を活用して調べ学習を行った。自分なりに検索方法を模索したり、ほしい情報について書物だけでなく、インターネットを活用してたくさん集めたりすることができた。ほしい情報を取捨選択する力がついてきている。 ・ムーブノートを活用できた。スライドに学習したことを写真や短い文章でまとめ、児童朝会や、ふるさと感謝祭のなかで大勢の前で発表することができた。今後は、発表の機会を増やしていきたい。 ・情報活用能力についての指導が学年によって差があるので、情報活用能力についてのカリキュラムを来年度組み込んでいき、どの学年も意識して指導が行えるようにしていく。	B
○ガイド学習を生かした授業づくり ○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展	○算数科のガイド学習の取組が他教科や特別活動、学校行事にも活かされており、児童が主体的に活動する姿が見られる。 ○教師の出場については子どもの思考が止まらないように意識することが定着しつつある。子どもの見取りをしっかりと行い子どもが進めることを意識した教師の出場について考えていく。さらに研究を積み重ねながらガイド学習を他教科につなげていく。 ○算数の授業において、教材解釈、教材研究、授業研究によって全職員で共有している。	A	⇒	○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展 (a,b,c,d,e,f,g)	・「子どもの深い学びをめざしたつなぐ力の育成」をテーマに研究をさらに推進していく。 ・どの教科でも子どもの主体的な学びを意識し授業改善をすすめる。 ・学校アンケート(職員)において「研究主題に基づいた研究は充実していたか」に対して肯定評価8割以上を目指す。 ・算数の授業において、教材解釈、教材研究、授業研究によって全職員共通理解のもとガイド学習を進め、「深まるおたずね」につなげていく。	・全員が年間3回以上は授業公開し、事前事後の研修で、教材研究や子どもの見取りをしっかりと行うことで授業力の向上を図る。 ・部分的にガイド学習を取り入れるなど、おたずねを通して授業が深まるようにどの授業でも意識し、子どもが主体的に取り組むことで学力の向上を図る。	・全員が年間3回以上授業公開し、事前事後の研修会で子どもの見取りや教材解釈、教師の出場等について共通理解を図ることができた。 ・学校アンケート(職員)において「研究主題に基づいた研究は充実していたか」に対しては肯定評価が8割以上となった。 ・他教科でも部分的にガイド学習を取り入れ、おたずねを通して授業が深まるように意識した。 ・「深い学び」につながるおたずねについては、明確にすることができなかった。 ・研究推進担当を中心に、新しく異動してきた教師にガイド学習の取組について丁寧に引き継いでいきたい。	A
○学校・学級便りや学校HPを活用した情報の発信 ○幼・小・中の11年間の連続性を共有した学校園所連携の推進	○学校や学級が積極的に情報発信をすることにより、保護者アンケートでは肯定的な評価となっている。 ◆これまでも取り組んできているが、さらなる地域人材、地域教材を発掘・整備し、地域の特色を生かしたふるさと学習に取り組んでいく。	B	⇒	○連続性を共有した学校園所連携の推進 (f)	・週1回の学級通信、月1回の学校便り、HPで日々の児童の様子を掲載する。 ・こども園、小中学校、小規模校との交流を計画的に推進する。	・通信を通して学校や学級、学習の様子、行事予定などを積極的に発信し、家庭での話題になるように努める。 ・他校の児童と積極的に話すことができる活動を工夫し、自信を持って行動できる児童を目指す。 ・中学校区で行われる担当者連絡会で得られた情報を全職員で必ず共有する。	・学校や学級が積極的に情報発信を行うことにより、保護者アンケートでは、肯定的な評価となっている。引き続き積極的に情報発信を行い、家庭の話題となるように努めたい。 ・他校の学年や全校で交流する活動を通して、自信を持って行動できた。 ・中学校区の担当者連絡会で得た情報は、全職員で共有できた。	A